

令和6年度 基本施策評価シート

作成日 令和6年6月24日

基本施策	F7	自らすすめる健康づくりを推進します	
2025年度にめざす姿	対 象		意 図
	市民が		心身ともに健康でいきいきと暮らしている。
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			180ページ
基本施策主管課名	健康づくり課	関係課名	地域保健課、国民健康保険課、後期高齢者医療室、中央総合事務所地域福祉課、東総合事務所地域福祉課、南総合事務所地域福祉課、北総合事務所地域福祉課

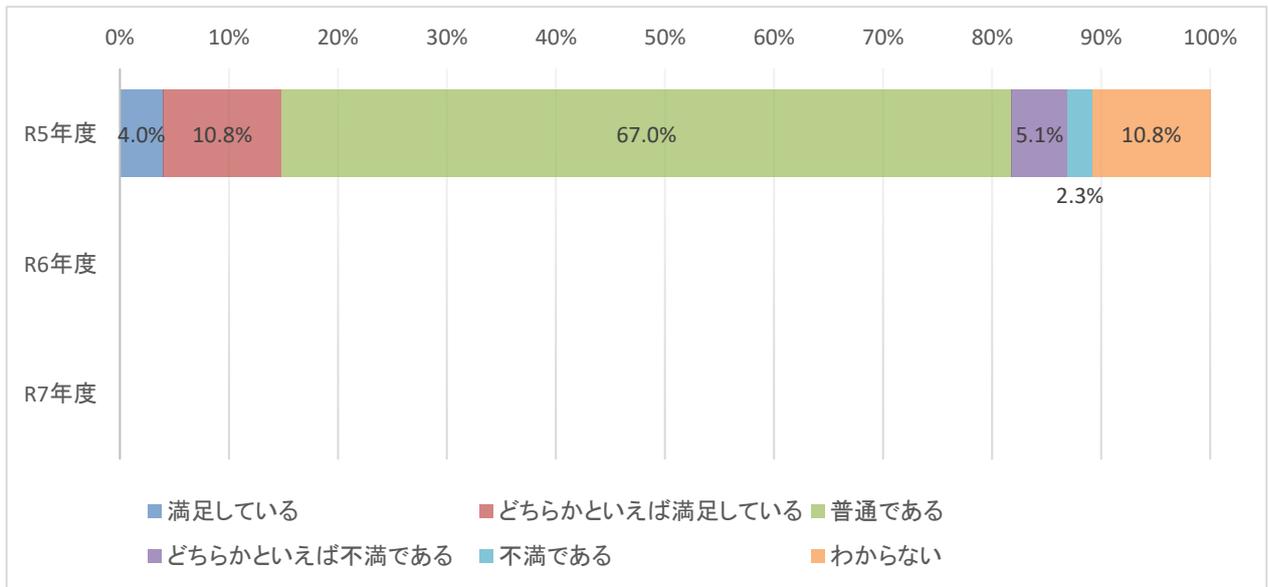
基本施策の総合評価

総括	<ul style="list-style-type: none"> ●基本施策の成果指標である「心身ともに健康だと感じる市民の割合」は、基準値である令和2年度から令和4年度までは下がったが、令和5年度は60.2%で令和4年度の57.0%よりも大きく回復している。 ●健(検)診受診により健康状態の把握を行っている市民は、基準値である令和2年度の66.9%から令和4年度の66.5%までほぼ横ばいであったが、令和5年度は71.7%と大きく伸びている。 ●市民満足度については、「満足している」及び「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合が14.8%で、「不満である」及び「どちらかといえば不満である」と回答した人の割合7.4%と比較し約2倍であった。 <p>以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。</p>
F7-1	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の自主的な健康づくりのより一層の推進を図るため、今後も、状況に応じた受講しやすい養成研修を実施し、健康づくり推進員を地域に知ってもらうことに取り組むとともに、活動の場の充実を図ることで、新たな人材確保に取り組む。 ●様々な主体と連携し、市民が自分に合った健康づくりを選択できるよう、情報発信や啓発に取り組む。 <p>※健康づくり推進員：地域における健康づくりの担い手で、食生活改善推進員、ロードウォークサポーター、精神保健福祉ボランティア、あじさいサポーター、高齢者ふれあいサロンサポーター、シルバー元気応援サポーター、介護施設ボランティア、認知症サポートリーダー、琴海地区健康づくり協力隊の9団体のこと。</p>
F7-2	<ul style="list-style-type: none"> ●既に健康づくりに関心がある市民及び健康づくりへの関心が薄い市民のそれぞれに応じた正しい知識の普及啓発に工夫して取り組む。 ●こころの健康や自殺予防に関する正しい知識についても、参加しやすい講座を実施することにより、見守りや、適切な相談機関につなぐことができる人材を増やすよう取り組む。
F7-3	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て世帯向けに、子育て応援アプリの活用や乳幼児健診の機会を利用して、親と子の歯科健診を推奨し、健診をきっかけに、歯周病の重症化予防に欠かせない歯科医院での定期受診につなげていく。 ●対象者が多く集まる場や関係団体を通して、オーラルフレイルについての説明や口腔機能を維持するための体操の方法などについて、情報提供を行う。

二次評価(施策評価会議による評価)

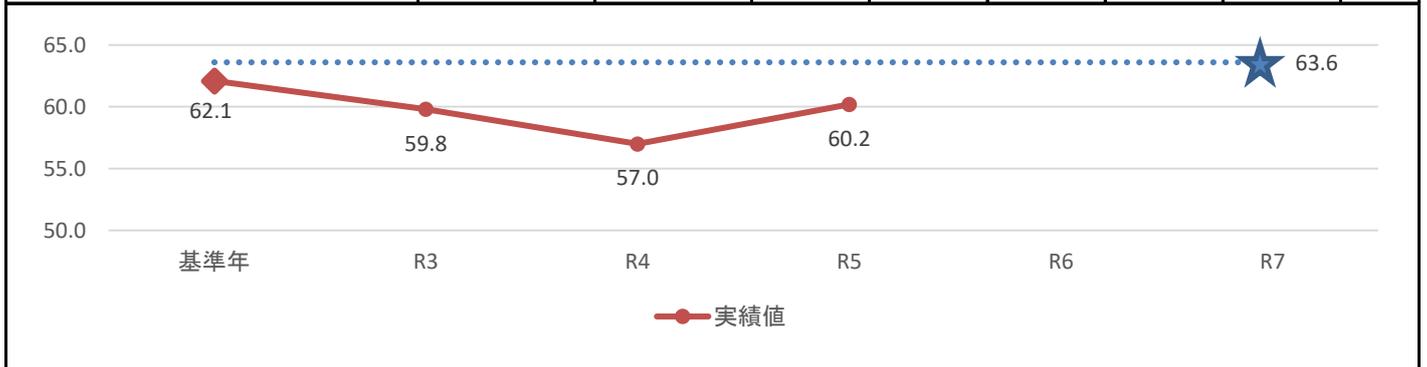
【F7-1】	<ul style="list-style-type: none"> ●「歩こーで！」の利用者等のデータ分析を行い、施策の推進につなげることが出来るよう、データの提供について引き続き県と連携していくこと。
【F7-1】	<ul style="list-style-type: none"> ●ゼロカーボン等他分野と連携しながら周知を行う取組みについても検討していくこと。(健康づくりのイベントに参加したらactcoinがもらえるなど。)
【F7-2】	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が正しい知識が得られるようホームページ等を活用して内容を充実させるとともに、民間と役割分担を行いながら、様々な人が情報を得られる環境づくりを行うこと。

基本施策に対する市民満足度調査結果

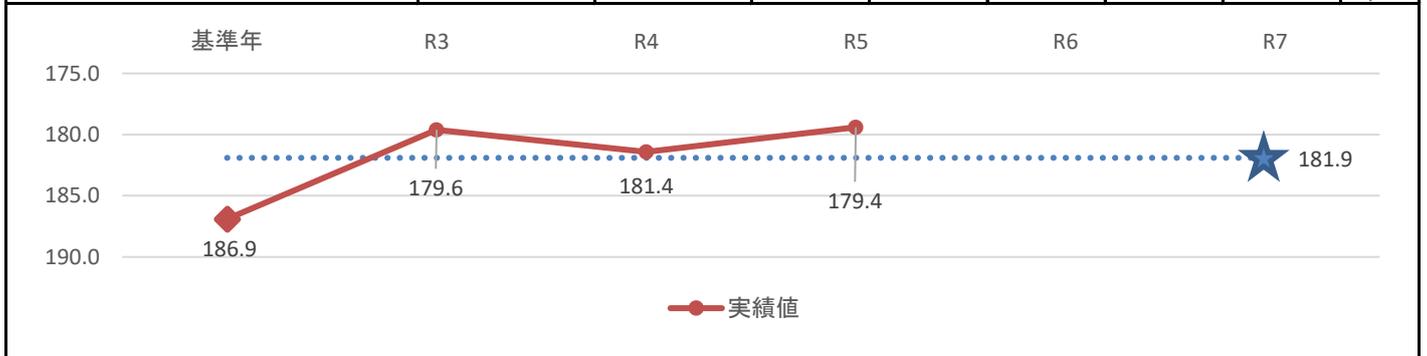


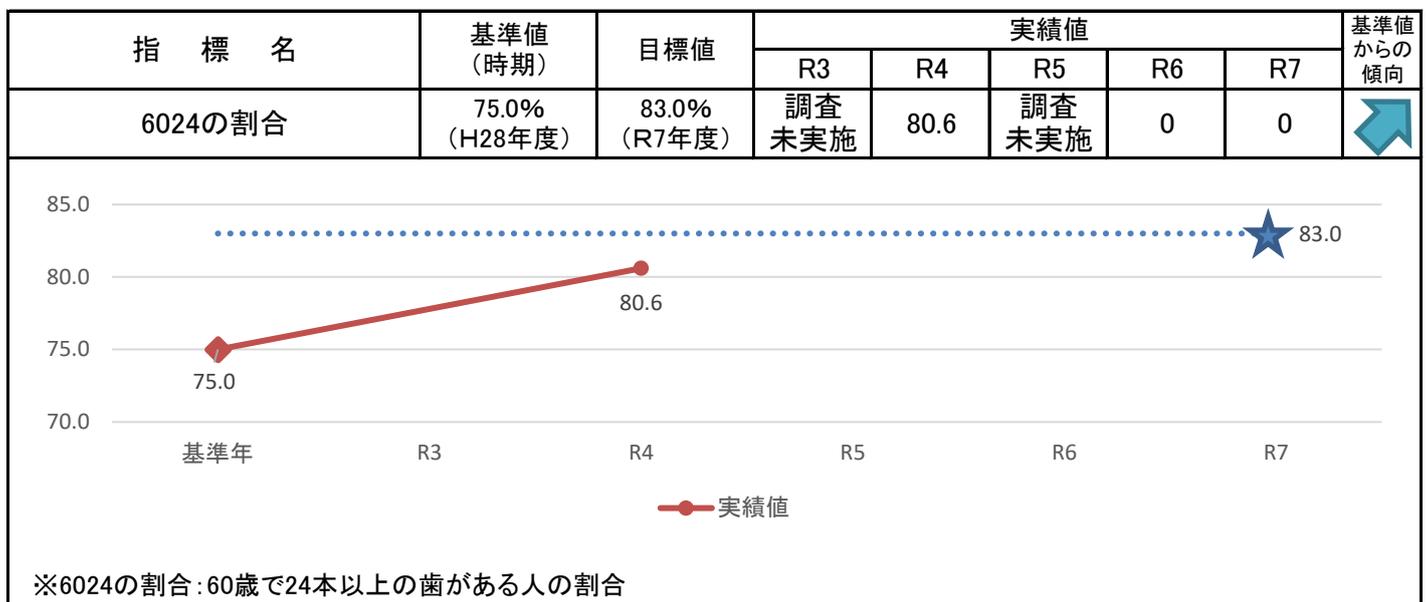
成果指標

指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
心身とも健康だと感じる市民の割合	62.1% (R2年度)	63.6% (R7年度)	59.8	57.0	60.2	0	0	▲



指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
3大疾病による死亡率(人口10万人当たり)[暦年]	186.9人 (R2年度)	181.9人 (R7年度)	179.6	181.4	179.4	0	0	▲





年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体との協働で開催した健康まつりにより、多くの市民に健康づくりの普及啓発が図られた。(参加者136人) ・健(検)診の実施により、多くの市民が健康状態を把握することに寄与した。(受診者数 延92,382人) ・定期的な歯科健診受診の啓発により、健康寿命の延伸に寄与した。(40歳で進行した歯周疾患がない人の割合が6年間で10.1%増) 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体との協働で健康まつりを開催することによる市民への健康づくりの普及啓発(参加者368人) ・健(検)診に関する啓発と、受診環境整備による特定健診や人間ドックなどの受診率の増(71.7%) ・歯科医院を定期的に受診する必要性の啓発による、成人期の定期的な歯科健診受診率の増(61.7%) 		

令和6年度 個別施策評価シート

個別施策	F7-1	市民の自主的な健康づくり活動を支援します	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	市民が		地域において、自主的な健康づくり活動に取り組んでいる。
個別施策主管課名	健康づくり課		

成果

① 健康づくり推進員の人材確保

●健康づくり推進員の人材確保のため、地域のイベントで健康づくり推進員を紹介するパネルの展示やチラシを配布し周知したり、地区活動及びイベントでの啓発活動の場を設けたことなどにより、新たに125人の健康づくり推進員を養成することができた。

●健康づくり推進員のリーダーの人材育成のため、地区学習会・交流会を9回開催し、延196人が参加した。

② 健康づくり推進員の活動の場の確保

●健康づくり推進員の活動を推進するため、地域のイベントを活用したり、保健師による地域活動と連携するなどして、地域活動を4,482回実施し、あじさいサポーターなど延3,365人が参加、イベントでの啓発活動を15回実施し、延60人が参加、地区学習・交流会を9回実施し、延196人が参加するなど、活動の場が令和4年度に比べ増大したことなどにより、健康づくり推進員の地域住民に向けた普及啓発の場が増え、地域住民が健康づくり活動に取り組むきっかけづくりや機会の提供につながった。

③ 健康づくりの啓発

●主体的な健康管理による市民の健康づくりを推進するため、生活習慣病の予防と重症化防止のための健康づくりについて普及啓発を行い、地域における保健医療・職域等の健康づくり団体との協働で、健康まつりを開催したことにより、368人の参加者に健康づくりに関する普及啓発ができた。
また、長崎市の公式ラインによる周知のほか、「歩こーで！」(ながさき健康づくりアプリ)を活用した健康に関するイベントや教室等開催の周知を61回実施し、新規参加者の増を図った。加えて、健康無関心層が多いと思われる20～50歳代への働きかけの一つとして、関係団体等へのイベント参加による啓発や新たに中学校の保護者(保健委員)への啓発を1回実施し19人が参加した。

問題点とその要因

① 健康づくり推進員の人材確保

●健康づくり推進員の活動の場を充実させ、モチベーションを向上させるよう取り組み、新たに健康づくり推進員を養成しているが、高齢化等により活動できる推進員が減少し、登録者は、1,639人で令和4年度よりも30人程度減少し目標を達成できていない。

●健康づくり推進員のリーダーについては、高齢化や負担感の大きさ等から、なり手が不足する現状がある。

② 健康づくり推進員の活動の場の確保

●地域のイベントを活用したり、保健師による地域活動と連携するなどして、健康づくり推進員の裾野を広められるよう、取り組んでいるが、地域での健康づくりに関する事業とのマッチングが十分にできていない場合もあり、活動の場がまだ足りていない。

③ 健康づくりの啓発

●長崎市の公式ラインや「歩こーで！」(ながさき健康づくりアプリ)を活用し、地域で開催する健康に関するイベントや教室等への新たな参加者増を図る取り組みをしているが、健康に無関心な人が多いと思われる20～50歳代の参加者はまだ少ない。

今後の取組方針

① 健康づくり推進員の人材確保

継続 ●より身近なところで確実に養成講座を受講できるよう、実施単位を細分化したり欠席時の補講を行うなど、今後も、状況に応じた受講しやすい養成研修を実施し、健康づくり推進員を地域に知ってもらうことに取組むとともに、活動の場の充実を図ることで、新たな人材を確保し、地域の自主的な健康づくりのより一層の推進を図る。

継続 ●健康づくり推進員の地区学習会・交流会を開催し、活動や情報の共有、交流を通して、健康づくり推進員のリーダーの人材育成に努める。

② 健康づくり推進員の活動の場の確保

継続 ●地域との協議や連携等を図りながら、地域でのイベントや健康教室、出前講座等、地域住民の活動におけるニーズとのマッチングにより、活動の場の確保が進むよう働きかけを継続するとともに、地域活性化事業（健康応援かけつけ隊）等の活用や健康づくり推進員の活動による地域の自主的な健康づくりの推進が図られるよう取り組む。

③ 健康づくりの啓発

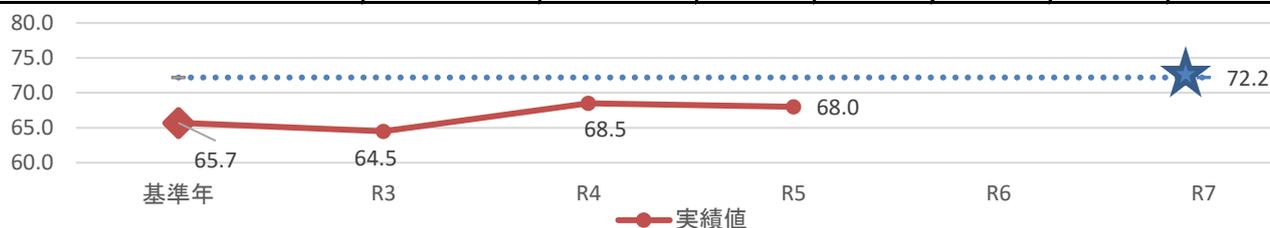
継続 ●地域で開催する健康に関するイベントや教室等への参加者募集のツールの一つとして、長崎市の公式ラインや「歩こーで！」による周知を継続するとともに、様々な主体と連携した健康まつりの開催等、市民が自分に合った健康づくりを選択できるよう、情報発信や啓発に取り組む。

成果指標

指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
健康づくり推進員の登録人数	1,881人 (R元年度)	2,097人 (R7年度)	1,770	1,668	1,639	0	0	↓



指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
適正体重を保つようにしている市民の割合	65.7% (R2年度)	72.2% (R7年度)	64.5	68.5	68.0	0.0	0.0	↑



※適正体重: BMI値(体重(kg)÷身長(m)÷身長(m))が18.5以上25未満になる体重をいい、25以上になると生活習慣病のリスクが高まり、18.5未満になると体調不良や病気のリスクが高まる。

施策を推進する主な事業

事業名 担当課	地域健康づくり推進費	健康づくり課、中央総合事務所地域福祉課、東総合事務所地域福祉課、南総合事務所地域福祉課、北総合事務所地域福祉課	
成果指標	健康づくり推進員の人数		
目標値	2,097人		
実績値	1,639人		
達成率	78.11%		
成果指標・ 目標値の説明	健康づくり推進員を増やすことが、自主的に健康づくり、生きがいづくり活動を実践している人を増やすことにつながるため、推進員の人数を成果指標とした。 各推進員の登録者の令和5年度の目標値の合計を目標値とした。		
事業目的	<p>地域における健康づくりの担い手である健康づくり推進員(食生活改善推進員をはじめとする健康関連ボランティアの総称、以下「推進員」)を養成し、自主的な健康づくりに取り組む市民を増やし、各推進員が地域で健康づくり活動を推進する。</p> <p>また、取り組みやすいラジオ体操の普及を行い、市民の自主的な健康づくりを支援することで、市民の「地域で取り組む健康づくり」を推進する。</p>		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・推進員の育成、普及活動の支援として、各課で養成講座や研修会の実施、市民への講習会活動や様々な市のイベントや公民館活動における普及啓発活動の支援を行う。 ・推進員が行う地区活動の支援及び地区学習会、交流会を実施するとともに、地域で各団体が協働して健康づくり活動ができるよう学びの場や交流の場を提供し、健康づくり普及活動を行う際の支援を行う。 ・取り組みやすいラジオ体操の普及を行い、市民の自主的な健康づくりを支援する。 		
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり推進員の養成数 125人 (R4年度 135人) ・健康づくり推進員の登録者数 1,639人 (R4年度 1,668人) ※重複登録あり ・健康づくり推進員の活動 <ul style="list-style-type: none"> 地域活動 4,482回 延3,365人参加 (R4年度 4,098回 延3,328人) (食生活改善推進員、ロードウォークサポーター、高齢者ふれあいサロンサポーターや認知症サポートリーダー等による啓発活動、参加人数については高齢者ふれあいサロンサポーターを除く) イベントでの啓発活動 15回 延60人参加 (R4年度 10回 延61人) (地区のふれあいまつりなどイベントにおける啓発活動) 地区学習・交流会 9回 延196人参加 (R4年度 8回 延175人) (地区別に行う健康づくり推進員の学習・交流会) 		
	決算(見込)額	1,883,082 円	

	事業名 担当課	健康長崎市民21普及費	健康づくり課
	成果指標	心身とも健康だと感じる市民の割合	 <p>【健康まつり(看護協会)】</p>
	目標値	63.00%	
	実績値	60.20%	
	達成率	95.56%	
	成果指標・ 目標値の説明	健康づくりの環境を整えることで、自主的に健康を意識する市民が増加し、健康に暮らせるまちづくりにつながると考えられるため、心身とも健康だと感じる市民の割合を成果指標とし、市民健康意識調査により把握する。 基準値を令和2年度の実績値とし、それまでの過去5年間の増加の平均値により、毎年0.3ポイント増を目標値とした。	
2	事業目的	全ての市民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現のため、健康寿命の延伸を大目標とする「第2次健康長崎市民21」計画を推進する。	
	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・健康長崎市民21市民推進会議の開催 ・市民健康意識調査の実施 ・「健康長崎市民21」計画の普及 	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・春の健康まつりを関係団体17団体と協働で開催 参加者数 368人 (R4年度 136人) ・歯っぴいスマイルフェスティバルで血管年齢測定、歯科事業の照会と口腔保健指導、食生活・CKD普及啓発のブースを出展 参加者数 200人 (R4年度 展示のみ人数未把握) ・エコライフフェスティバルへ血管年齢測定のブースを2日間出展 参加者数 360人 (R4年度 210人) ・健康増進普及月間や女性の健康週間に合わせたパネル展示等(市立図書館、市役所19階など) ・健康づくりに関連する各地域のイベント開催等の情報を「歩こーで！」(ながさき健康づくりアプリ)で配信 61回 	
		決算(見込)額	1,953,364 円

令和6年度 個別施策評価シート

個別施策	F7-2	健康づくり環境の充実を図ります
2025年度に めざす姿	対 象	意 図
	市民が	健康増進のための正しい知識を習得し、健康管理に努めている。
個別施策主管課名	健康づくり課	

成果

① 正しい知識の普及啓発

●生活習慣病に係る正しい知識の普及啓発を図るため、生活習慣病予防教室や在宅療養指導などの実施により、健康教育で延7,383人、健康相談で延6,313人、訪問指導で延353人に対し支援ができた。慢性腎臓病(CKD)については、医師からの指導依頼のあった対象者に個別で延166人、集団で延35人に重症化防止のための栄養指導ができた。

また、9月の食生活改善月間に合わせて市役所食堂「ル・シェフ」の協力のもと、スマートランチを提供し、健康に配慮した食事の体験を通して食生活改善の普及啓発を図った。

さらに、子育て世代も参加する、歯っぴいスマイルフェスティバルや子育て応援ひろば等を含む各種イベントへの出展、中学校のがん教育出前講座、健康にまつわる月間等にちなんだパネル展示などにより、生活習慣病やたばこが健康に及ぼす影響等について正しい知識の普及啓発ができた。

※スマートランチ…「パスティNagasaki」(長崎県栄養士会会員で構成されるグループ)が主食、主菜、副菜が揃った献立、食塩相当量が3グラム未満などの基準により、考案したメニュー

●精神保健に関する正しい知識の普及啓発のため、市民・関係者に向けた出前講座や講演会等の実施、ゲートキーパー養成講座を開催し、それぞれ1,443人、584人の参加があり、こころの健康や自殺予防に関する正しい知識の普及を図ることができた。

② 健(検)診の受診環境の整備

●受診者の利便性等を考慮し、受診機会の確保を図るため、市内284の医療機関に加え、特定健診及び後期高齢者医療健康診査については、近隣市町の医療機関にも委託して実施した。また、公民館等で行う集団健(検)診を延123箇所で開催し、特定健診とがん検診を同時に受けられるセット健(検)診や平日夜間や土日の健(検)診の実施等、受診しやすい環境づくりに努めた。

さらに後期高齢者医療健康診査については、原子爆弾被爆者対策協議会において被爆者健診との同時健診を実施した。

取組みの結果、成果指標としている健(検)診受診率は目標を達成した。

問題点とその要因

① 正しい知識の普及啓発

●エコライフフェスタなど健康づくりへの関心が薄い市民も参加する各種イベントへの出展により、より多くの市民への正しい知識の普及啓発に取り組んでいるが、自分は若いからまだ大丈夫という過信などから、自覚症状が出る前からの健康維持のための健康づくりや生活習慣の改善の大切さが、それを継続していくことにつながるほど十分には浸透していない。

●精神保健に関する正しい知識の普及啓発やゲートキーパー養成講座を実施し、適切な相談機関につなぐことができる人材を身近に増やすよう進めているものの、こころの健康に問題を抱えている人の割合は増加しており、目標達成には至っていない。

② 健(検)診の受診環境の整備

●受診機会の確保を図り、健(検)診受診による健康チェックの大切さを広報紙やイベント等で啓発し、個別受診勧奨に加え、医師会、歯科医師会の協力によるかかりつけ医からの声掛けなど、様々な手段を用いて取り組んでいるが、自覚症状が出ないうちは、健康であると思込みがちであることなどから、まだ十分に健(検)診受診の大切さが市民に浸透していない面もあり、受診率が目標に達していないものもある。

今後の取組方針

① 正しい知識の普及啓発

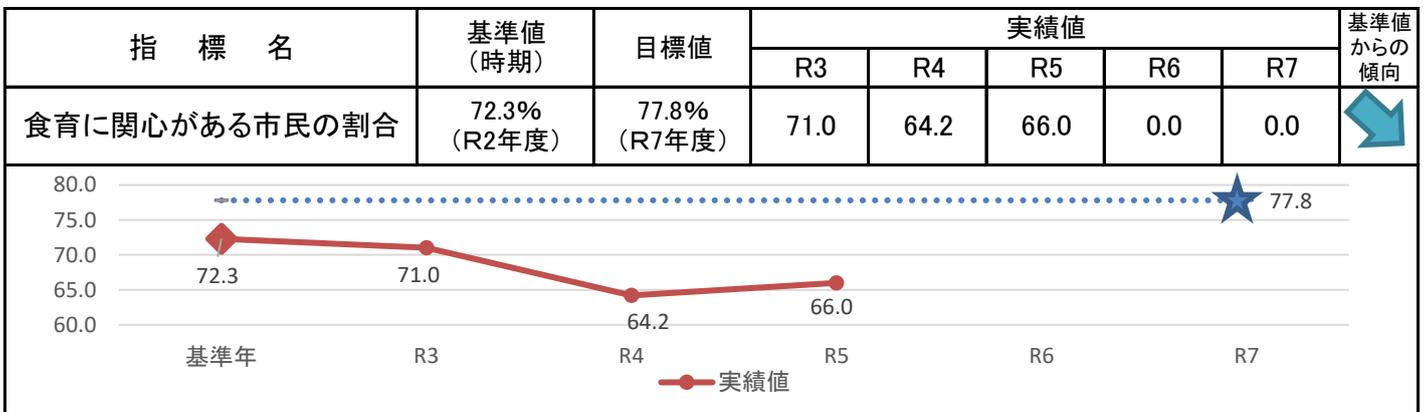
継続 ●正しい知識を持って、健康管理をする市民がさらに増えるよう、既に健康づくりに関心がある市民へ向けた普及啓発のほか、働き盛りの親世代とその子が多く参加する市PTA連合会のイベントに新たにブースを設ける等、関係機関とも連携しながら、健康づくりへの関心が薄い市民への啓発を、どのような情報をどのような手段で行えば効果的であるかについて、様々な工夫をしながら取り組む。

継続 ●こころの健康や自殺予防に関する正しい知識の普及啓発を行う。特にゲートキーパー養成講座については、市民、企業、学校等に出前講座として実施するとともに、誰もが参加できる講座を実施することで、見守りや、適切な相談機関につなぐことができる人材を増やすよう取り組む。

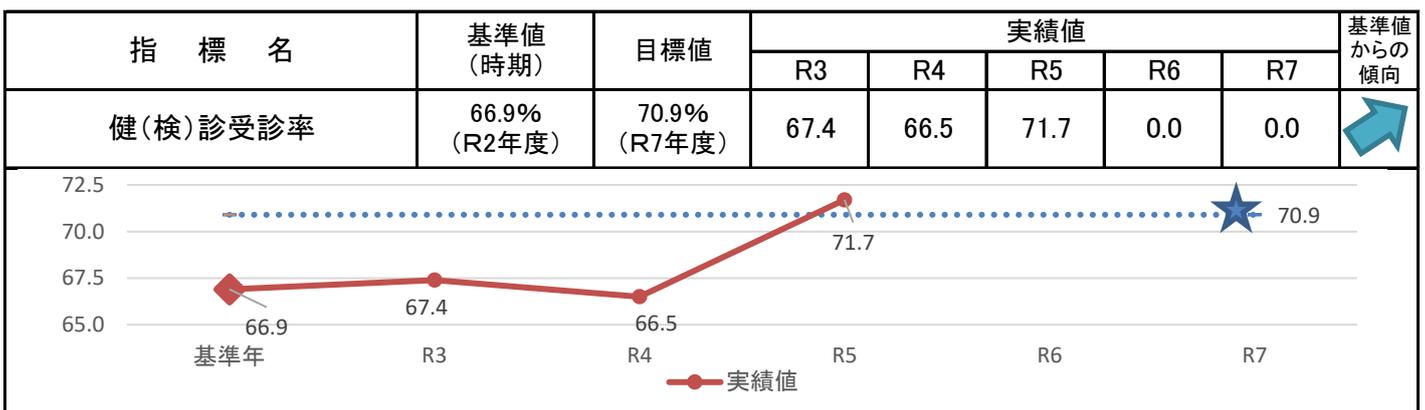
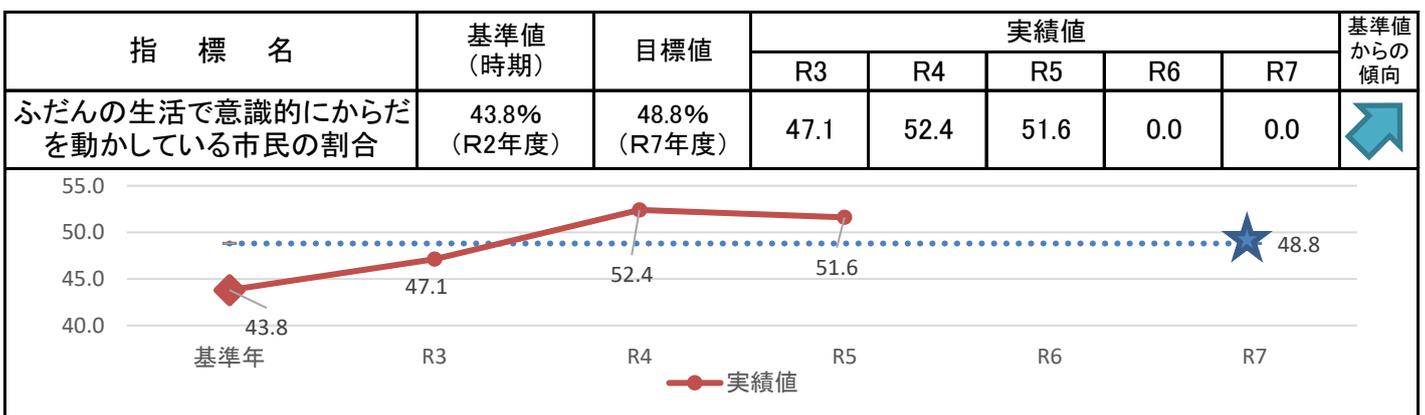
② 健（検）診の受診環境の整備

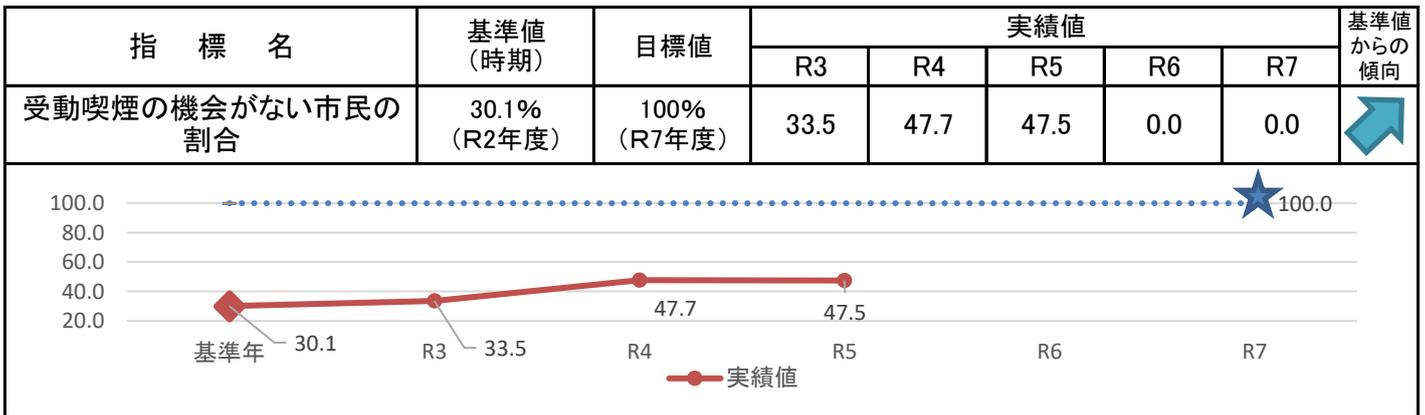
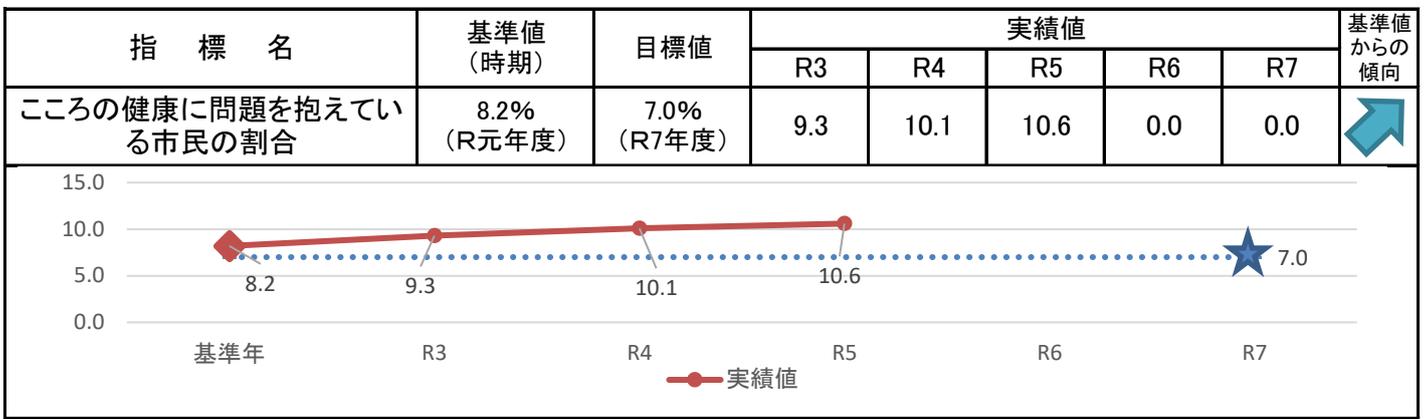
継続 ●健（検）診実施医療機関の確保や平日夜間や土日の集団健（検）診の実施については、引き続き取り組む。また、健（検）診受診の大切さについて、様々な機会を活用し粘り強く普及啓発を行い市民の意識の向上を図るとともに、医療機関受診時の医師からの声掛けによる受診勧奨など、引き続き関係機関の協力も得て市民への受診の呼び掛けを継続する。

成果指標



※食育:「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。





施策を推進する主な事業

事業名 担当課	がん検診等事業費		健康づくり課
成果指標	健(検)診受診率		 <p>【集団がん検診(検診車)】</p>
目標値	69.30%		
実績値	71.70%		
達成率	103.46%		
成果指標・ 目標値の説明	<p>健(検)診を受診する人が増えることで、病気の発見と治療につながり、生活習慣病の発症と予防が図られるため、過去1年間に特定健診や職場健診・人間ドックなどを受診した市民の割合を成果指標にした。 基準値を令和2年度の実績値とし、平成30年度から令和2年度までの平均増加率から、毎年0.8ポイント増を目標値とした。</p>		
事業目的	生活習慣病やがん等の危険因子を持つ者をスクリーニングすることにより、疾病の早期発見及び早期治療を図る。		
事業概要	胃、肺、大腸、乳、子宮などの各種がん検診、歯周疾患検診及び、医療保険非加入者(生活保護受給者等)を対象とした健康診査等を実施する。		
取組実績	<p>健康診査 914人 (R4年度 884人) 胃がん検診 11,304人 (R4年度 10,484人) 肺がん検診 18,086人 (R4年度 17,136人) 大腸がん検診 12,193人 (R4年度 11,735人) 乳がん検診 6,390人 (R4年度 5,995人) 子宮がん検診 10,436人 (R4年度 10,436人) 前立腺がん検診 2,178人 (R4年度 2,259人) 胃がんリスク検診 250人 (R4年度 229人) 歯周疾患検診 761人 (R4年度 991人)</p>		
	<p>(R5年度市民健康意識調査で受診したと回答した人の割合) 胃がん検診 46.2% (R4年度 43.0%) 肺がん検診 60.1% (R4年度 53.5%) 大腸がん検診 40.1% (R4年度 39.8%) 乳がん検診 41.4% (R4年度 44.0%) 子宮がん検診 44.3% (R4年度 45.2%) ※40～69歳の割合、子宮がん検診のみ20～69歳の割合 乳がん(マンモグラフィ)、子宮がん検診は、国の指針により、2年度に1回の検診</p>		
	決算(見込)額	432,103,421	円

	事業名 担当課	特定健康診査受診率向上対策費	国民健康保険課
	成果指標	特定健康診査受診率	 <p>【電車車体広告】</p>
	目標値	36.00%	
	実績値	35.40%	
	達成率	96.30%	
	成果指標・ 目標値の説明	<p>特定健康診査の受診率を向上させることが疾病の早期発見・早期治療につながるため、受診率を成果指標とした。</p> <p>「第3期長崎市国民健康保険特定健康診査等実施計画」(H30～R5)で定める令和5年度の目標値とした。</p>	
2	事業目的	特定健康診査等の受診率を向上させ、疾病の早期発見・早期治療につなげるにより、医療費増加の抑制と市民の健康維持・増進を図る。	
	事業概要	国民健康保険の特定健康診査未受診者に対する個別通知(ハガキ)の発送や、新聞広告や電車広告、テレビやラジオなどの媒体を活用した広告等による特定健康診査の周知活動を実施することで、受診率の向上を図り、市民の健康維持につなげる。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・未受診者個別通知発送数:87,578件 ※長崎県の「ICTを活用した未受診者への個別通知発送に係る委託事業」に令和3年度から参加。 ・新聞広告掲載:1回(9月) ・電車車体広告掲載50日間(納期分10回(各5日間)) ・テレビCM放送:1月～2月【100本】 ・ラジオCM放送:1月～2月【80本】 ・受診率 <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度(令和6年4月末時点):35.4% 令和4年度(令和5年4月末時点):32.7% <p>(実施機関から国保連への報告値を利用:報告にタイムラグがあるため、未確定値)</p>	
	決算(見込)額	4,550,854	円

	事業名 担当課	後期高齢者医療健康診査費	後期高齢者医療室
	成果指標	健康診査受診率	 <p>【血圧測定】</p>
	目標値	17.00%	
	実績値	12.20%	
	達成率	71.80%	
	成果指標・ 目標値の説明	健康診査の受診者数を増やすことが生活習慣病の早期発見及び重症化防止につながるため、健康診査受診率を成果指標として設定し、県平均受診率を目標値とした。	
3	事業目的	高齢者の医療の確保に関する法律第20条に基づき後期高齢者医療被保険者に対し無料の健康診査を実施することで生活習慣病の早期発見及び重症化を予防し、生活の質の確保及び介護予防に寄与することを目的とする。	
	事業概要	保険者である長崎県後期高齢者医療広域連合から長崎市が健康診査の実施を受託し、長崎市医師会及び長崎県健康事業団等に再委託し実施する。	
	取組実績	<p>受診者数 8,320人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別健診 7,283人 ・集団健診 494人 ・原爆(追加健診) 543人 	
	決算(見込)額	71,948,764	円

4	事業名 担当課	自殺防止啓発費	地域保健課
	成果指標	ゲートキーパー養成講座受講者数	 <p>【ゲートキーパー養成講座】</p>
	目標値	350人	
	実績値	584人	
	達成率	166.9%	
	成果指標・ 目標値の説明	自殺を予防するためには、自殺を考えている人に気づき見守り適切な相談機関につなぐ人材を増やすことが重要であるため、ゲートキーパー養成講座の受講者数を成果指標とした。第2期長崎市自殺対策計画において、R6年度からの目標値は年600人とした。	
	事業目的	市民一人ひとりが心の健康や自殺予防に関心を持ち、自殺予防のために適切な対応ができるよう啓発を行い、自殺対策の強化を図る。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防にかかわる人材育成のため、ゲートキーパー養成講座を実施する。 ・講座や講演会等を通じ、市民への自殺予防に関する普及啓発及び相談窓口の周知を図る。 ・自死遺族支援として、自死遺族のための分かち合いの場を提供する。 ・自殺対策計画の策定や進捗確認を行い、自殺対策を推進する。 		
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートキーパー養成講座 23回 584人 ・出前講座 23回 426人、市民公開講座 4回 299人、こころの健康づくり講演会 2回 255人 ・自殺防止週間及び自殺対策強化月間に合わせたパネル掲示、SNS啓発、NHK長崎にて周知 ・自死遺族のつどい 6回 39人 ・自殺対策実務者連絡会、研修会実施 1回会議 24人、1回研修 24人 		
	決算(見込)額	488,572	円

	事業名 担当課	禁煙対策費	健康づくり課
	成果指標	受動喫煙の機会がない市民の割合	<p>世界禁煙デーキャンペーンを開催！</p> <p>6月4日（日）市立図書館多目的ホール 10：30～13：00（受付）</p>  <p>【世界禁煙デーキャンペーン】</p>
	目標値	72.10%	
	実績値	47.50%	
	達成率	65.88%	
	成果指標・ 目標値の説明	受動喫煙の機会が減ることが、健康につながるため、受動喫煙の機会がない市民の割合を成果指標とした。基準値を令和2年度の実績値とし、令和7年度の最終目標値を100%として、毎年14ポイント増を目標値とした。	
5	事業目的	市民に対して喫煙が健康に及ぼす影響についての普及啓発及び「長崎市禁煙ネットワーク」を活用して、地域での禁煙相談窓口の強化を図り、禁煙に取り組む人を増やす。また、改正健康増進法や受動喫煙についての普及啓発により、望まない受動喫煙防止の推進を図る。	
	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が見近なところで禁煙相談、支援を受けやすい環境づくりを行う。 ・禁煙支援ネットワークの利用促進のため、市民や関係者への啓発を行う。 ・禁煙支援ネットワークの多職種が連携し、禁煙や受動喫煙について広く啓発する。 ・禁煙希望者(50人)を公募し、禁煙支援に使用するニコチンパッチの支給、禁煙指導を禁煙支援ネットワーク加盟の薬局で行う。(禁煙サポート事業) ・禁煙支援のための情報提供や相談会を実施する。 	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・健康まつりと世界禁煙デーキャンペーンにて関係団体による禁煙相談ブース開設 ・禁煙サポート事業 43人参加(参加希望63人、落選、対象外11人、辞退9人) (R4年度 41人参加) 禁煙サポート薬局 34軒 (R4年度 38軒) ・たばこに関する相談会を10回開催、192人参加(うち禁煙相談33人) (R4年度 8回開催、91人参加、(うち禁煙相談27人)) ・世界禁煙デー・禁煙週間に合わせたパネル展示 市役所19階、市立図書館 ・医師や関係課等を通じて喫煙及び受動喫煙が健康に及ぼす影響についてのリーフレット配布 2,912枚 (R4年度 7,013枚) 	
	決算(見込)額		678,225 円

事業名 担当課	生活習慣病予防対策費		健康づくり課、中央総合事務所地域福祉課、東総合事務所地域福祉課、南総合事務所地域福祉課、北総合事務所地域福祉課
成果指標	生活習慣病予防のために適度な食事や定期的な運動を実践している人の割合		 <p data-bbox="1174 562 1382 595">【腎臓栄養教室】</p>
目標値	—		
実績値	54.50%		
達成率	—		
成果指標・ 目標値の説明	<p>生活習慣病の発症予防、重症化予防には、本人自らがよりよい生活習慣を実践することが何よりも効果的であることから、意識して良い生活習慣を継続している人の割合を成果指標とした。</p> <p>調査データが令和4年度以降のものしかないため、目標値を立てるに至っていない。</p>		
事業目的	生活習慣病の発症及び重症化を予防するため、正しい知識の普及啓発と支援により、健康的な生活習慣の定着を図ることを目的とする。		
6 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人工透析予備軍向け：訪問栄養指導 ・中等度腎機能低下者向け：重症化予防教室の開催 ・腎機能軽度低下者向け：生活習慣病予防教室、重点健康相談 ・一般市民、潜在者向け：世界腎臓デーイベント開催、各種イベントや教室での啓発、 広報媒体での情報発信 ・ストップCKDネットワーク会議の開催 		
取組実績	<p>集団健康教育 373回開催 延 7,383人参加 (R4年度 340回、延 5,478人)</p> <p>健康相談 2,571回開催 延 6,313人参加 (R4年度 2,627回、延 8,631人)</p> <p>訪問指導 239回開催 延 353人参加 (R4年度 183回、延 248人)</p> <p>慢性腎臓病(CKD)関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問栄養指導、集団栄養指導 延 201人 (R4年度 延 130人) ・ハイリスク教室 延 234人 (R4年度 延 109人) ・予防教室(軽度低下者、一般向け) 延 828人 (R4年度 延 1,164人) ・イベント等 延 508人 (R4年度 延 216人) <p>世界腎臓デーに合わせたパネル展示等(市立図書館)</p>		
	決算(見込)額	10,032,419	円

令和6年度 個別施策評価シート

個別施策	F7-3	歯科口腔保健を推進します
2025年度に めざす姿	対 象	意 図
	市民が	口腔の健康管理に努め、その機能を健全に保っている。
個別施策主管課名	健康づくり課	

成果

① フッ化物利用の促進

- フッ化物は、歯科医院での高濃度の塗布と家庭などでの低濃度の歯磨剤・洗口の複合利用により効果が高くなることを乳幼児健診時に周知し、科学的エビデンスに基づいたむし歯予防法についての情報提供を行った。4歳から15歳までの継続したフッ化物洗口の実施環境の整備により、15歳児のむし歯有病者率は、平成28年度の44.2%から令和5年度の29.2%へ減少した。
- 集団歯科健診や出前講座などにおいて、フッ化物配合歯磨剤の効果的な使用方法の周知を行った。

※フッ化物洗口：一定濃度のフッ化ナトリウム溶液(5～10ml)を用いた30秒～1分間のブクブクうがいにより行うむし歯予防方法。

② 口腔管理の啓発

- 健診や健康まつりにおいて、歯周病の予防・重症化抑制のためには、歯ブラシに加えて歯間ブラシやフロスも用いたブラッシングと歯科医院を定期的を受診することの両方が必要であることを周知した。また、子育て応援情報サイト等において妊産婦等歯科健診について周知し、妊婦/産婦の受診率は令和3年度(26.6%/16.5%)、令和4年度(30.5%/19.3%)、令和5年度(31.5%/22.7%)と増加している。成人期における1年に1回以上の定期受診実施率は、令和2年度56.6%、令和3年度59.8%、令和4年度61.4%、令和5年度61.7%と徐々に増加している。

③ 口腔機能維持による健康寿命の延伸

- 地域で実施される出前講座、高齢者サロンや特定健診において、オーラルフレイルについてや口腔ケアと口腔機能維持の方法について周知した。
- オーラルフレイル対策を目的とし、医療・介護・福祉に関連した多職種が共に参加し、専門的知識や各種情報の共有と技術指導を行う研修会を開催することで、市全体の多職種のスキルアップと対象者への多面的な情報の周知につながられた。

問題点とその要因

① フッ化物利用の促進

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、フッ化物洗口実施予定施設で一時休止した影響が未だ残っており、実施回数が少ない傾向にある。

② 口腔管理の啓発

- 歯周疾患検診や妊産婦等歯科健診をきっかけとして、歯科医院での定期的な受診について啓発を行っているが、若年層では多忙なことや歯周病の初期では痛みなどの症状がほとんどないこともあり、歯科医院の受診をしない傾向がある。

③ 口腔機能維持による健康寿命の延伸

- 医療や介護の専門職による訪問がない在宅の対象者に対して、周知につながりにくい。

今後の取組方針

① フッ化物利用の促進

継続 ●乳幼児歯科健診などの集団歯科健診や出前講座などにおいて、成人に対しても、フッ化物配合歯磨剤の効果的な使用方法についてスライドやチラシを用いて図示し、フッ化物利用の科学的なエビデンスについて継続して周知を行う。

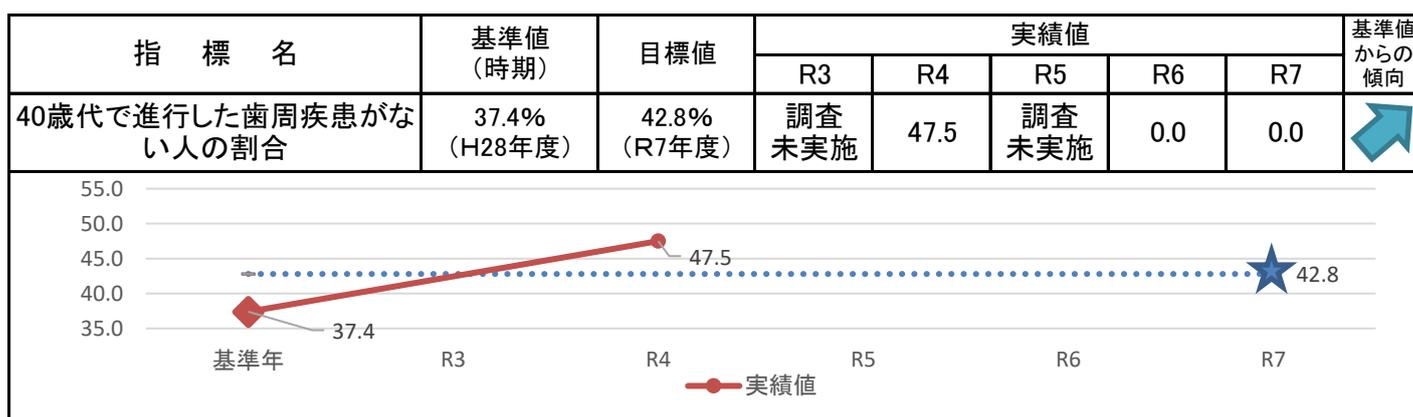
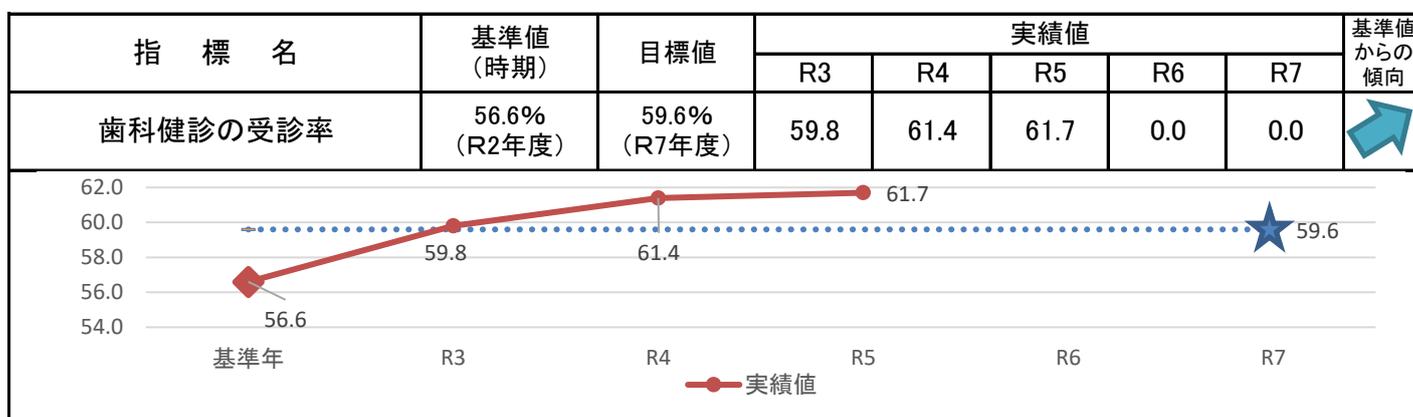
② 口腔管理の啓発

新規 ●若年層への歯科健診情報を周知するため、20歳への歯周疾患検診受診勧奨ハガキの送付を開始し、乳幼児健診時の親子での歯科健診推奨と子育て応援アプリのプッシュ通知を活用して周知の徹底を図る。健診での歯科保健指導により日々のセルフケアの方法を確立し、さらに歯周病の重症化予防に欠かせない歯科医院での定期受診につなげていく。

③ 口腔機能維持による健康寿命の延伸

継続 ●オーラルフレイルについての説明や口腔機能を維持するための体操の方法などについて、対象者が多く集まる高齢者サロンやハートセンター等における周知のほか、多職種を対象としたオーラルフレイルに関する研修会に参加した関係団体と連携し、必要な人へ情報提供を行う。

成果指標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	フッ化物洗口推進費	健康づくり課
	成果指標	4～14歳までのフッ化物洗口実施者の割合	 <p>【フッ化物洗口のブクブクうがい】</p>
	目標値	90%	
	実績値	83.80%	
	達成率	93.10%	
	成果指標・ 目標値の説明	<p>学校等においてフッ化物洗口を継続して実施することで、生涯にわたるむし歯予防効果が期待できることから、学校等におけるフッ化物洗口実施者の割合を成果指標とした。</p> <p>長崎市歯科保健推進計画では、すべての学校でフッ化物洗口実施の環境づくりに努めることとし、県の目標を準用して4～14歳までのフッ化物洗口実施者の割合を目標値としている。</p>	
	事業目的	むし歯予防のために、学校等における集団フッ化物洗口の実施を推進する。	
	事業概要	フッ化物洗口を実施する公立学校等に対し、必要な薬剤および消耗品を支給する。私立施設に対しては、必要な薬剤等の購入について補助金を交付する。	
取組実績	フッ化物洗口実施施設 保育園・幼稚園・認定こども園 101/142園 (R4年度 99/144園) 市立小学校67/67校 (R4年度 68/68校) 市立中学校37/37校 (R4年度 37/37校)		
	決算(見込)額	4,852,406	円

2	事業名 担当課	歯科健診費	国民健康保険課
	成果指標	歯科健診の受診者数	 <p>【歯科健診】</p>
	目標値	150人	
	実績値	86人	
	達成率	57.30%	
	成果指標・ 目標値の説明	<p>できるだけ多くのかたに受診してもらうことが、う蝕、歯周疾患の早期発見、早期治療につながるため、個別健診の予算計上の人数である150人を成果指標とした。</p>	
	事業目的	国民健康保険被保険者のう蝕、歯周疾患を早期に発見し、早期治療につなげる。	
	事業概要	満2歳～6歳の未就学児及び満18歳以上の国民健康保険被保険者に対し、歯科健診の助成を行う。また、特定健診の集団健診会場において歯科健診を実施する。	
取組実績	○個別健診 ・受診期間:7月～3月 ・受診者数:成人 86人、幼児 0人、合計 86人 ○集団健診(歯科医師及び歯科衛生士の派遣) ・受診期間:9月～3月までに5回		
	決算(見込)額	1,109,116	円

3	事業名 担当課	がん検診等事業費(歯周疾患検診)【決算額は、F7-2から再掲】		健康づくり課
	成果指標	歯科医院で1年に1回以上定期的に歯科健診を受けている人の割合		 <p>【歯科保健指導】</p>
	目標値	58.40%		
	実績値	61.70%		
	達成率	105.65%		
	成果指標・ 目標値の説明	<p>歯周疾患を早期に発見し、重症化を予防するためには、定期的な健(検)診の受診が有効であるため、歯科医院での歯科健診の受診率を成果指標にした。 基準値を令和2年度の実績値とし、平成30年度から令和2年度までの3年間の平均増加率より、毎年0.6ポイント増を目標値とした。</p>		
	事業目的	初期の段階では自覚症状がほとんどない歯周疾患の検診を実施することにより、早期発見及び重症化予防を図る。		
	事業概要	20, 25, 30, 35, 40, 50, 60, 70, 80歳と禁煙を希望する20歳以上の喫煙者を対象として歯周疾患検診を実施する。		
取組実績	歯周疾患検診 761人 (R4年度 991人)			
	決算(見込)額	432,103,421 円		

4	事業名 担当課	障害者・高齢者歯科保健費		健康づくり課
	成果指標	50歳以上における咀嚼良好者の割合		 <p>【お口の体操】</p>
	目標値	80%		
	実績値	71.36%		
	達成率	89.20%		
	成果指標・ 目標値の説明	<p>口の機能の衰えは、食欲低下による低栄養から健康寿命にも関わることから、50歳以上における咀嚼良好者の割合を目標値とした。</p>		
	事業目的	歯科保健医療を受けることが難しい対象者に対し、口腔及び全身の健康を支援する。		
	事業概要	研修会に参加する医療や介護に関連する多職種が情報を共有し、要支援者の健康増進を図る。		
取組実績	研修会参加人数 延712人 (R4年度 延410人)			
	決算(見込)額	2,823,079 円		